

前浜通信



心をひとつに

校長 中間 均

肌寒い季節になりました。島民の皆様におかれましては、風邪などを召されぬようご注意ください。さて、高等学校では10月末から11月初旬にかけて、大きな行事が続きました。まずは、黒潮祭です。高等学校の黒潮祭を楽しみにしている小さなお子様たちもたくさんいることと思います。

残念ながら今年もステージ発表と展示という形式で、保護者と希望する中学3年生のみの来客制限を行っての開催となりました。

文化祭は、文化部の発表会がメインであります。それだけでは寂しいので日頃の授業の成果を発表したり、クラスでの出し物を披露したりします。

学校行事は、準備の段階での教育的な意義を感じます。特に、無から有を生み出す文化祭はその傾向が強いですが、普段の教室では見られないような、友達との素晴らしい一面を発見できることが文化祭の良い所です。

今回の出し物では、三つの学年共に映像での発表があり、その編集技術は目を見張るものがありました。

昔は、八ミリビデオを回していたのですが、今はスマホで…。時代の進歩に追い付かなくなるのを感じるのは、私だけででしょうか。

どの学年も「心をひとつに」作品を作り上げたのは、今も昔も同じでした。とても良い行事でした。

黒潮祭を終えて

黒潮祭実行委員長

3年 梅田 詩菜



今年の文化祭は、コロナの影響で、オンラインのみ開催となりましたが、感染対策を行い、保護者にお越しただけたことが生徒たちにとって原動力につながったと思います。

今年も準備期間が短くて、各学年ともに大変であったと思いますが、一年生は、初めての文化祭でしたが、それを感じさせない動画でした。

二年生は、動画の始まりのCMがとても手が込んでいたと思います。そしてダンスもかわいく努力が垣間見れました。

そして三年生は、進路活動もある中で、クラスの企画として有志もこなし、本番でも盛り上がり三年間の最後の文化祭としてふさわしく、三年生らしい作品となりました。

全学年、とても良いものが出来て、盛り上がり、最高でした。

来年も、みんなで協力して最高の文化祭になるように実行委員中心に頑張りたいです。

創立50周年記念式典・ アトラクションが開催されました

式典委員長 主幹教諭 三上 博史

令和三年十一月六日（土）、創立五十周年記念式典が挙行されました。コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、島内にお住まいの御来賓五十二名、同窓生・一般・保護者十六名の方々に御列席いただきました。当初、この記念式典は、島内外から多くの関係者の方々を迎え、式典・祝賀会と盛大に行う予定でした。



今日の状況を考えると式典だけでも滞りなく終えられたことは、島民の皆様の御協力あつてのことだと感謝いたしております。式典の一部は、厳かに執り行われ、校長式辞に続き、同窓会長挨拶を三期生の鈴木敦様、来賓祝辞を村長の前田弘様より頂戴いたしました。生徒代表挨拶は、二年生の清水咲羽さんが務め、これからの神津島を担う高校生のお考えを表明してくれました。

式典の二部は、アトラクションとして、「神津島吹奏楽団ブルーカレンツ」による演奏、神津テレビによる「創立五十周年記念動画あの日あの時」の放映、「神津島太鼓」による演奏で花を添えていただきました。

この大きな節目である五十周年記念式典の最中、神津島の空には、大きくはつきりとした虹がかかっていました。「素晴らしい未来が待っている暗示」とも言われる虹。神津島の神様も神津高校に訪れる素晴らしい未来を見守ってくれることと思えます。今後も百年目、百五十年目を迎えられるよう村民の皆様をはじめ多くの関係者の方々の変わりぬ御支援をよろしくお願いたします。



フルートを演奏して 1年 鈴木 菜々海

神高50周年式典という場でブルーカレンツのメンバーとして演奏に参加できて、とても嬉しかったです。私はこのような式典での演奏は初めてでしたので、音を外してしまわないか、いつも出来ていたことが出来なくなってしまうのではないかととても緊張しました。でも本番は、落ち着いていつものように演奏ができたので、ホッとしました。ほどよい緊張感とは本番に慣れるためにも必要なことなので、今回の経験を次の本番で活かしたいと思います。今回、私たちが式典で演奏したことで少しでも音楽や吹奏楽に興味をもってくれる人が増えたら嬉しいです。

太鼓を演奏して 2年 清水 ひなの

今回、50周年で太鼓を演奏するに聞いた時はコロナで発表する機会がなかったのですが、すごく嬉しかったです。演奏した曲は「あらぶる」と「祭り」という曲でした。本番の日まで中学生やおとなの方々と一緒にたくさん練習しました。本番では幕が上がると直前から一曲目までは、緊張していましたけれども二曲目には全員が笑顔で演奏できたと思います。ちゃんと練習した成果を出すことができ嬉しかったです。演奏が終わってからも聞いてくれた人が「カッコよかったですよ」と言ってくれて嬉しかったです。今回のことをきっかけとして、日本の伝統文化である太鼓をこれからも楽しみながら頑張っていきたいと思えました。

